



2025年1月

発行

山梨大学  
医学部附属病院

## 脳卒中・心臓病等総合支援センター開設について

脳卒中・心臓病等総合支援センター長 木内 博之



脳卒中や心臓病などの循環器病は、がんに次いで日本人の死亡原因の第2位を占めています。また、循環器病は後遺症が残ることや、様々な合併症を抱えていることが多く、医師や看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフなど、多職種による継続的な治療、情報提供および相談支援が求められます。

本邦では「脳卒中・循環器病対策基本法」に基づき、脳卒中や心臓病患者への支援体制の整備が進められており、厚生労働省は、「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」を推進しています。本事業では、専門的な知識を有し、地域の中心的な役割を担う医療機関が「脳卒中・心臓病等総合支援センター」と

して指定され、都道府県と連携した包括的な支援体制の構築を行います。当院は令和6年度に本モデル事業に採択され、これを受けて「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設しました。当センターでは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士、薬剤師などが協力し、循環器病患者やその家族に対する情報提供および相談支援を行います。これらは、医療福祉支援センター内の脳卒中相談窓口に関心臓病に関する機能を追加拡充し対応します。また、山梨県内の行政機関や医療機関との連携強化を促進し、循環器病患者とその家族への包括的な支援体制の充実を図るとともに、相談支援、情報提供、市民啓発において山梨県での中心的な役割を果たしていきます。

つきましては、院内各部署の皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 安全の日について

医療支援課長 根本 栄一

当院は毎年12月13日を「安全の日」と定め、全職員を対象とした医療安全研修会を行っています。

これは、平成26年の同日早朝に起きた医療事故を全職員が振り返ることで、安全意識の醸成と個人のふとした注意、確認のモレから医療事故へ至ってしまう安全管理体制の不足を認識するためです。



本件では、患者さんご遺族への補償や当事者となった看護師の刑事訴追など、病院長を始め、顧問弁護士や山梨大学同窓会等多くの関係者が対応を行いました。患者さんだけでなく、事故を起こした看護師自身も「第二の犠牲者(セカンド・ビクティム)」という状況も生じ、同じような立場・経験のある仲間によるサポート(ピアサポート)の必要性が認識され、ここ数年はピアサポート研修を開催しています。

私自身も、こうした教訓を胸に刻み、日々の業務に生かしていきたいと思っています。

## 就任あいさつ

消化器内科長 土屋 淳紀



令和6年11月より、消化器内科教授・診療科長を拝命いたしました土屋淳紀と申します。私は静岡県三島市の北側で生まれ、横浜で育ち、新潟大学へ進学、平成11年に同大学医学部を卒業しました。その後

も新潟を拠点に臨床・教育・研究を26年間行ってまいりました。この度、山梨大学にご縁をいただき心より感謝申し上げます。現在、山梨の医療への貢献のために気持ちを新たにしているところでございます。

消化器内科は消化管、肝臓、胆嚢・膵臓領域と担当する領域が非常に広く、また消化・吸収・代謝と非常に大きな役割を果たす臓器を担い、疾患の範囲もがん・炎症・出血・

感染など慢性疾患から急性疾患まで多種に及びます。近年では、ピロリ菌の除菌や周期的なC型肝炎治療の開発、各種がんや炎症性腸疾患に対する治療への新薬、機器や治療技術の進歩などにより、診療を行う疾患も劇的に変化しました。しかし、今なお、患者数や解決できていない疾患が非常に多い診療科になります。

消化器内科を担当させていただくにあたり、安心かつ大学としての高度医療を含めた消化器診療を、医師のみならず病院スタッフ皆さんと作り上げることができる良いチームを築いていきたいと思っております。そして、将来的に県内で、消化器診療の中心的な役割を果たしていく医師を多く輩出していきたいと考えております。何卒ご指導のほどお願い申し上げます。

## 「2024年度患者安全推進地域フォーラム in 山梨」開催を終えて

医療の質・安全管理部

令和6年10月14日（月）に当院が幹事病院として、（公財）日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会の協力のもと、「2024年度患者安全推進地域フォーラム in 山梨」を開催し、県内外から約40名の医療従事者にご参加いただきました。

「地域と取り組む医療安全」をテーマに、地域医療の現状と課題を取り上げた病院経営管理部長による基調講演をはじめ、初期救急医療センター長から地域の救急医療の現状と今後の課題について、肝疾患センター長から肝疾患コーディネーター養成、ウイルス受診勧奨活動や肝疾患啓発イベントの紹介、医療の質・安全管理部長から医療の質向上と医療安全推進への取り組み、また、山梨医療安全研究

会会長より地域の医療安全に取り組む研究会の活動についてご講演をいただきました。



また、午前は病院見学を開催し、参加者は見学しながらGoogle Formを使用したアンケートフォームに感想やアイデアをその場で入力し、フィードバックする試みのほか、各所で職員が制作した3分程度の紹介ビデオをモニター視聴により案内を行うなどの工夫を取り入れました。

フォーラム終了後のアンケートでは、「フォーラムに参加して有意義であった」との回答が100%となる評価をいただき、地域と取り組む医療安全について参加者とともに考える良い機会となりました。

## 「令和6年度医学教育等関係業務功労者」の表彰

令和6年11月26日、文部科学省において令和6年度医学教育等関係業務功労者表彰式が行われ、池長聰放射線技術部主任診療放射線技師と村松美保栄養管理部調理師(士)が表彰されました。

<受賞者コメント>

### 放射線技術部 主任診療放射線技師 池長 聰

この度「令和6年度医学教育等関係業務功労者」を受賞させていただきました。このような賞を受賞できましたのはご指導いただきました諸先輩、先生方をはじめ、同僚、関係者の皆さまのご支援の賜物であると感じております。心より深く感謝申し上げます。

現在「医師のタスクシフト」の

推進によって、診療放射線技師業務は拡大傾向にあり、同時に他職種との連携がより必要かつ重要となっております。時代の大きな変化に臨み、この賞を糧に医療の質の向上、後進の教育、育成のために微力ではありますが貢献できるように努力してまいります。



### 栄養管理部 調理師(士) 村松 美保

この度は「令和6年度医学教育等関係業務功労者」に選出いただき、心より感謝申し上げます。

昭和63年4月より、栄養管理部において病院給食に従事してまいりました。今日まで勤めてこられたのは、ご指導くださった多くの諸先輩方や栄養管理部の皆様のお力添えのおかげだと

感じております。

今後も引き続き、これまでと変わらず患者さんと栄養管理部、大学病院のために尽力していく所存ですので、これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



## クリスマスコンサートを開催しました

総務課 総務グループ 伊藤 圭央

令和6年12月11日に病院正面玄関でクリスマスコンサートを開催しました。このコンサートは、入院されている患者さんに癒しのひと時をお届けしたい、という想いから毎年開催していたもので、コロナ禍では惜しくも中止していましたが、昨年から再開しました。今年はフェールアンサンブル、本学医学部交響楽団の皆様にお越しいただき、入院されている患者さんに向けて、一足早いクリスマスをお届けしました。スターバックスコヒーからのコーヒースーブのプレゼントや、迫力ある華麗な生演奏とヴァンフォーレ甲府のマスコット、ヴァ

ン君が記念撮影等で場を盛り上げ、大盛況のクリスマスコンサートとなりました。



# 令和6年度研修医マッチング結果について

臨床教育部長 板倉 淳

令和6年度の本学研修医マッチングは、昨年より7名少ない26名、マッチング率61.9%、新設17大学では滋賀医大に次いで2位、42国公立大学では病床数当たりで11位でした。山梨県全体では昨年より13名減の53名、人口当たりでは47都道府県中32位という結果でした。COVID-19の5類移行に伴う行動制限の緩和により、病院見学を含む学生の動きが活発となり、昨年より大都市周辺への回帰が指摘されていましたが、その傾向が続いていると考えています。

一方で、首都圏集中の抑止のため進められてきたシーリングによりアンマッチ者が増加し、本学でも他大学出身者を含む5名が2次募集で追加内定となり、現時点での採用内定者数は31名です。平成22年以降、市中病院志向、大学病院離れはさらに進み、大学病院の割合は昨年より0.5%低下して35.3%となりました。しかし、私立・公立大学はこの10年ほど23%前後を維持し、特に私立大学では15大学が本院でフルマッチしました。ひとつの分析として、専門医取得後の30～40歳代、いわゆるミドルキャリアの働き方として、大学・医局の中でのキャリアアップより、

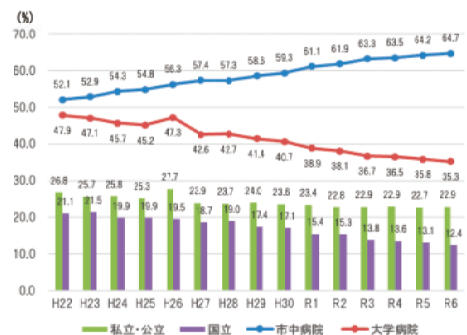
市中病院で独り立ちした専門臨床医の志向傾向が強くなっていることが挙げられます。また、国立大学病院ではこの8年間、マッチ者数の減少傾向が続き、特に新設17大学では昨年の上位5校は本学を含め30名以上でしたが、今年は滋賀医大の29名が最高で、平成30年には17大学で総数874名であったマッチ者数が今年は575名となり、300名も減少しています。

このように依然として地方国立大学が厳しい状況にある中で、本学が地域枠を中心に一定数確保できているのは、山梨県臨床研修病院等連携協議会を中心に各施設、行政、医師会等と連携し、オール山梨で若手医師育成を図ってきた結果と考えています。しかし、ミドルキャリアの受け皿となる市中病院が少ない本県では、今年度13名減という結果を真剣に受け止め、対応を考える必要があります。その一つとして、地域枠以外の県外出身者が母校に残りたいと思う環境を提供すること、臨床教育を中心に6年間の学部教育を通じて母校への信頼を高めることが必要です。今後も学部・病院をあげてのご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

新設医科大学マッチ者数

R5年度						R6年度								
順位	都道府県	病院名	大学病院(施設別)マッチ者数	大学病院(施設別)マッチ率(%)	大学病院(施設別)マッチ者数	順位	都道府県	病院名	大学病院(施設別)マッチ者数	大学病院(施設別)マッチ率(%)	大学病院(施設別)マッチ者数			
1	山梨県	山梨大学医学部附属病院	48	88	79	31	94	1	山梨県	山梨大学医学部附属病院	48	88	62	88
2	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	35	33	94	17	52	2	山梨県	山梨大学医学部附属病院	48	88	62	88
3	北海道	旭川医科大学病院	55	31	56	31	100	3	北海道	旭川医科大学病院	47	26	65	26
4	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	39	30	77	24	80	4	静岡県	浜松医科大学医学部附属病院	37	25	68	11
5	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	46	30	65	25	83	5	愛媛県	愛媛大学医学部附属病院	42	25	60	25
6	山形県	山形大学医学部附属病院	50	21	42	20	95	6	宮崎県	宮崎大学医学部附属病院	50	25	50	22

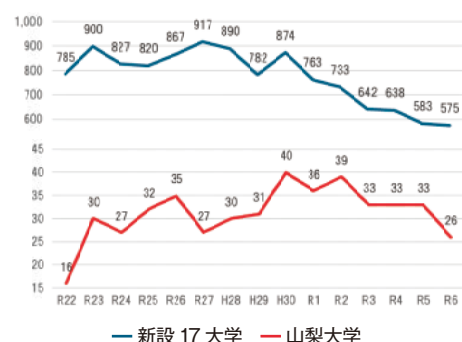
大学(国立、私立、公立)、市中病院 マッチ者数割合推移



R6年度国立大学別618床あたりのマッチ者数

順位	都道府県	病院名	大学病院(施設別)マッチ者数	病床数	618床あたりのマッチ者数
1	東京都	東京医科歯科大学病院	94	813	71
2	茨城県	筑波大学附属病院	62	800	48
3	東京都	東京大学医学部附属病院	94	1,246	47
4	兵庫県	神戸大学医学部附属病院	65	934	43
5	京都府	京都大学医学部附属病院	62	1,141	34
6	千葉県	千葉大学医学部附属病院	46	850	33
7	大阪府	大阪大学医学部附属病院	54	1,086	31
8	滋賀県	滋賀医科大学医学部附属病院	29	603	30
9	北海道	旭川医科大学病院	26	602	27
10	広島県	広島大学病院	32	742	27
11	山梨県	山梨大学医学部附属病院	26	618	26

新設17大学と山梨大学のマッチ者数推移



## 医学部附属病院において防災トリアージ訓練を実施

副防災・災害対策室長 森口 武史

令和6年11月30日(土)、医学部附属病院において防災トリアージ(※1) 訓練を実施しました。

訓練には学内の教職員(当院 DMAT 隊(※2) を含む) および学生約400名が参加し、単一医療機関の災害訓練としては最大規模となりました。



災害対策本部受付

今回の訓練は、静岡市付近を震源とする「マグニチュード8」の地震に伴い山梨県南西部を中心に家屋の倒壊、火災および交通事故等による多数の傷病者が発生し、当院へ診療要請がされる想定で実施しました。さらに、昨年度に引き続き、化学物質による汚染を伴う患者が来院することとし、NBC 対策訓練も同時に行いました。また、井上感染制御部長のご協力を得て、各ゾーンでの感染対策と災害医療との両立を目指しました。各部署からの被害報告の第一報を試験的にQRコードを使ったWeb入力で行い、発災から傷病者受け入れ決断までの情報伝達の迅速化を図るとともに、昨年度、4年ぶりに実施した本訓練の際に見られた指揮命令系統の混乱が生じないように本部機能を整理しました。



災害対策本部における災害対策会議



患者搬送

訓練終盤では被災地での食事提供を想定し、栄養管理部により訓練参加者に検食として炊き出しによる食事を提供し、木内病院長をはじめ多くの参加者から好評を得ました。

訓練後の反省会では、木内病院長および各ゾーンのリーダーから今後必要な災害対策マニュアル改定に向けて貴重なご意見をいただき、現在鋭意改訂作業中です。引き続き災害対応へのご理解ご協力のほどお願いいたします。



緑ゾーン(軽症者対応ゾーン)での診療

※1【トリアージ】大規模災害等により多数の負傷者を受け入れる際、限られた医療資源でできるだけ多くの人を助けるため、重症度により負傷者の搬送や治療の優先順位をつけること。

※2【DMAT隊】災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略して「DMAT」と呼ばれ、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)により構成される。大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。

当院 DMAT 隊は、院内各部署から隊員を募集しております。災害医療にご関心のある方は、総務課(内線 2008)までご連絡ください。

## 令和6年度医療法第25条に基づく立入検査について

総務課 研究協力・医療企画グループ 村松 郁子

令和6年9月19日（木）に関東信越厚生局および山梨県による「医療法25条の規定に基づく立入検査」が実施されました。本立入検査は、病院が法令により適正な管理を行っているかを検査し、指導等を通じて、



良質で適切な医療を行う場にふさわしいものとするを目的としています。

20名の医療監視員、検査員が来院し、書類検査やヒアリング、現場確認が行われました。今年度は医師の働き方改革への対応状況を中心に、医療の安全管理体制、院内感染対策および医薬品・医療機器管理体制等、多岐にわたる項目に対し検査が実施され、病院長はじめ関係各部・

診療科の方々にご対応いただきました。

講評では、法令に反する不適切な事項は認められないとの評価を受けましたが、一方で、新入職員研修のあり方、事故等報告書の提出期限厳守、医師の働き方改革関連の対象医師への面接の適正実施、インターバルの確保等について指導および助言をいただきました。これらの事項については関係各署で検討の上、速やかに改善を図ることとしております。



最後に、受検に際し事前調書の作成・準備、当日の対応や記録等、多くの方々にご尽力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

## 「やまなし肝ぞうデー 2024 ～肝ぞうについて学んでみるじゃん～」を開催しました

肝疾患センター長 前川 伸哉

令和6年12月1日（日）、当院肝疾患センターと山梨県との共催で啓発イベント「やまなし肝ぞうデー 2024 ～肝ぞうについて学んでみるじゃん～」をイオンモール甲府昭和さくら広場にて開催しました。本イベントは今年度で2年目となり、山梨県における肝臓病の撲滅を目的に、市民の皆様にご理解を深めていただき、受検・受診・受療へつなげる取り組みとして実施しました。

今回は、前回盛況だった肝臓の硬さと脂肪量を測定するフィブロスキャンを3台に



肝炎体操の様子

増やし、握力測定、血圧測定、ストループテスト（認知機能測定）といった各種検査体験に加えて新

たに正確な体脂肪率と体成分組成がわかる「インボディ検査」を行いました。また、家族で楽しめる企画として、ポスター展示、クイズ大会、スタンプラリー、ミニゲームコーナーに加え、肝臓に良い効果が期待できる「肝炎体操」をリハビリテーショ



ポスター展示

ン部・八木野技師長に考案いただいて、取り入れました。県内の肝疾患コーディネーターにイベント運営のご協力をいただき、スタッフはオレンジ色のオリジナルTシャツを着用し、会場を盛り上げました。

当日は、多くの方にご来場いただき、肝臓の健康に対する関心の高さを実感しました。ご協力いただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

## 小児糖尿病サマーキャンプ in YAMANASHI

小児科 矢ヶ崎 英晃、成澤 宏宗

山梨県で開催される「やまびこの会小児糖尿病サマーキャンプ」は、高校生までの1型糖尿病患者を対象として、1986年から行われています。COVID-19の流行により3年間の中断を経て、本年で第36回目を迎えることができました。当院からも多くのスタッフにご協力いただき、無事に成功することができました。ご支援いただきました方々に、心より御礼申し上げます。



本年は、北杜市にある難病のこども支援ネットワーク「あおぞら共和国」において、8月4日から7日まで3泊4日の日程で開催しました。30名近くの1型糖尿病の子どもたちが集まり、60名を超えるスタッフがキャンプ運営に携わっていただきました。スタッフの手作り企画が満載で、入笠山登山、積み木企画、エアロビクス、バーベキュー、キャンドルファイアーなど、多くのアクティビティで子どもたちはとても楽しんで



いました。最終日には「帰りたくないよ」と泣いて帰る姿が印象的で、本当に良い経験になると感じました。

一方で糖尿病キャンプは、日本糖尿病協会で定められた患者研修会です。医師、看護師、薬剤師、栄養士による患者看護および療養指導の場であり、医学生、看護学生、教育学生、栄養学科生にとっては貴重な早期臨床経験となっています。子どもたちとスタッフで血糖測定やインスリン注射、近年はインスリンポンプなどの医療機器について学習することができ、将来小児や糖尿病に関わる医療スタッフの育成につながっています。

これからも皆さまのご支援のもと、インスリンを使用する子どもたちがのびのびと生活できる社会になることを祈念しております。引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## 医学部キャンパスで打ち上げ花火「第1回 梨医群青花火大会」を開催

学生有志団体「チーム花火」

令和6年10月26日（土）、本学医学部キャンパスにて花火大会を開催しました。この花火大会は、「小児病棟のこどもたちに花火を！」をテーマに株式会社マルゴー様のご協力のもと、学生有志団体「チーム花火」が企画し、実施しました。当日は天候にも恵まれ、小児病棟の関係者のご協力により、子どもたちは会場近くから観賞することができました。また、他の病棟の患者さんや病院関係者など多くの方々にご観賞いただき、盛大な花火大会となりました。「感動した」「楽しかった」とのお声を多くいただき、大変光栄に思っております。

本企画は、今年度卒業を迎える本学医学部医学科6年生の有志が6年間お世話になった大学に恩返しをしたいという思いから「チーム花火」を立ち上げ、実現に至りました。実施にあたり小児科医師の矢ヶ崎英晃先生をはじめ、病棟関係者など多くの方々にご指導、ご協力いただきました。また、クラウドファンディングを実施したところ、地域や企業の



皆様、大学・病院関係者からも多大なご支援をいただきました。

ありがたいことに来年度以降も是非開催してほしいというご意見をいただいております。後輩たちの協力を得ながら継続開催を模索していく所存です。引き続きよろしくお願い申し上げます。

「第1回梨医群青花火大会」にご支援、ご協力いただいた全ての皆様に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

### 第1回 梨医群青花火大会

